

【生薬名】 升麻 *Cimicifugae Rhizoma*

【起源植物】 サラシナショウマ *Cimicifuga simplex*



【科名】 罂粟科 Ranunculaceae

【別名】 晒葉升麻、ヤサイショウマ

【薬用部分】 根茎

【主成分】 トリテルペノイド、クモニン類、フェノール類

【薬性】 気味は肝心微寒、帰経は肺脾大腸胃に属す

【効能】 ●発表透疹・清熱解毒・升挙陽気

●解表、透疹に用い、麻疹の初期で発疹が遅いときに用い発表させると治癒を促進させる

●古人は「中気を昇提する」としている、柴胡と併用するとよい

●昇提作用があるので補中益気湯は内臓下垂、脱肛、子宮脱などによく使う

●疼痛に、特に顔面部の風熱の症状によく、アスピリンなどに応用する

●民間ではアセモに煎液を塗る

●熱性頭痛、咽喉腫等に解熱解毒剤として汗がかけずに体がほてるような熱や痛み用いる、1日5~10gを水400mlで半量まで煎して服用したり、うがいに用いる

【出典】 ●升麻 性寒、胃を消し、毒を解し下陷を升提し、牙疼遂う可し。(薬性歌)

●寒熱風腫諸毒、喉痛、口瘡、悪臭を主り、癰腫、腕疽瘡を療す。(古方薬議)

【備考】 ●

●

【処方例】 ●補中益気湯、升麻葛根湯

●乙字湯●